

令和3年度国際文化交流学部 入学者選抜 一般選抜（前期日程）小論文
解答例・出題意図

I

〔問1〕 解答例

新旧のコンテストを比較して、課題解決型ではなく未来創造型の提言を求め、大学生だけでなく中高生の参加を募り、デザインシンキングの手法を導入し、期間中IT禁止にするという方針転換を知ったことから。(96字)

〔問2〕 解答例

従来の課題解決型では、ITによって課題を探りデータを集め解決策を探ることになり、手間をかけない分かえって自由な発想を縛り、多くの仮説の中から議論して最善案を絞り込めないと考えている。(95字)

〔問3〕 出題意図

従来のコンテストでは全国の大学生に活性化策の提言を求めていた。新たに地元の中高生を加えたチーム編成にすることで何がよくなるかを自分で考え、自分の言葉でまとめる力を問うている。「住みたい街」の未来像を描くチームに全国の大学生を残す理由も考えてほしい。

II 出題意図

異文化コミュニケーションの先駆者とも言える研究者の執筆による、社会的・対人的距離とその距離に対する人の認識をテーマとしたHidden Dimensionからの出題である。本書は動物から人間までを幅広く対象にして、他者との距離の取り方の社会的・文化的な意味合いを考察している。出題範囲は、同一文化圏に属すると認識されやすい英国と米国の間においても、対人距離や個人空間に関する意味づけに違いがあることを、大学教員である筆者が担当した指導学生の経験を実例として取り上げて説明したものである。

〔問1〕 解答例

一人になりたい時にルームメイトが理解せず、しつこくつきまとわれたためである。米国では一人になりたいときは自室に入りドアを閉め切る。一緒にいる相手に話しかけないことは拒絶と不快感を意味することになる。他方、英国では自室がない環境で幼少期から育っているため、空間を利用して一人になるという習慣を身につけていない。一人になりたいときは心の中で障壁を設定する。その障壁は周囲の人が理解するものとされている。(199字)

[問2] 出題意図

評価のポイントは、以下のとおりである。

- ・具体的な事例の紹介がある。
- ・他人との間で生じた距離感を巡る衝突に関する省察が述べられている。
- ・問題文章に即し、衝突の背景にある文化的な背景に関する自分の解釈が述べられている。
- ・文章が論理的に展開されている。
- ・読み手の理解を意識した表記である。